

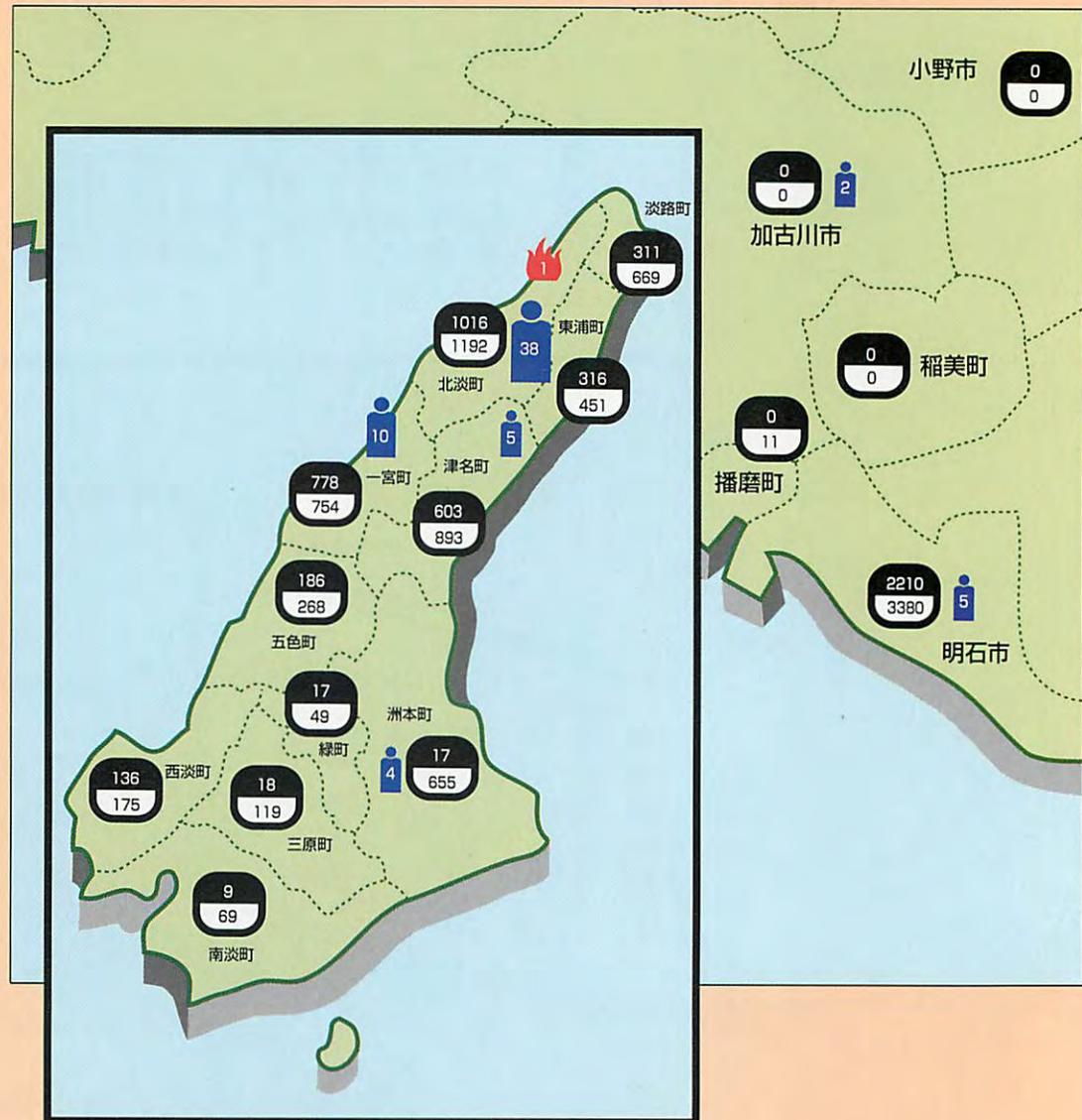
第 1 部

大震災の爪痕



日本が震撼した日

阪神・淡路大震災の被害状況（兵庫県調べ）



解説

平成7年（1995）年、1月17日午前5時46分、兵庫県南部地震*が発生した。震源地は明石海峡。

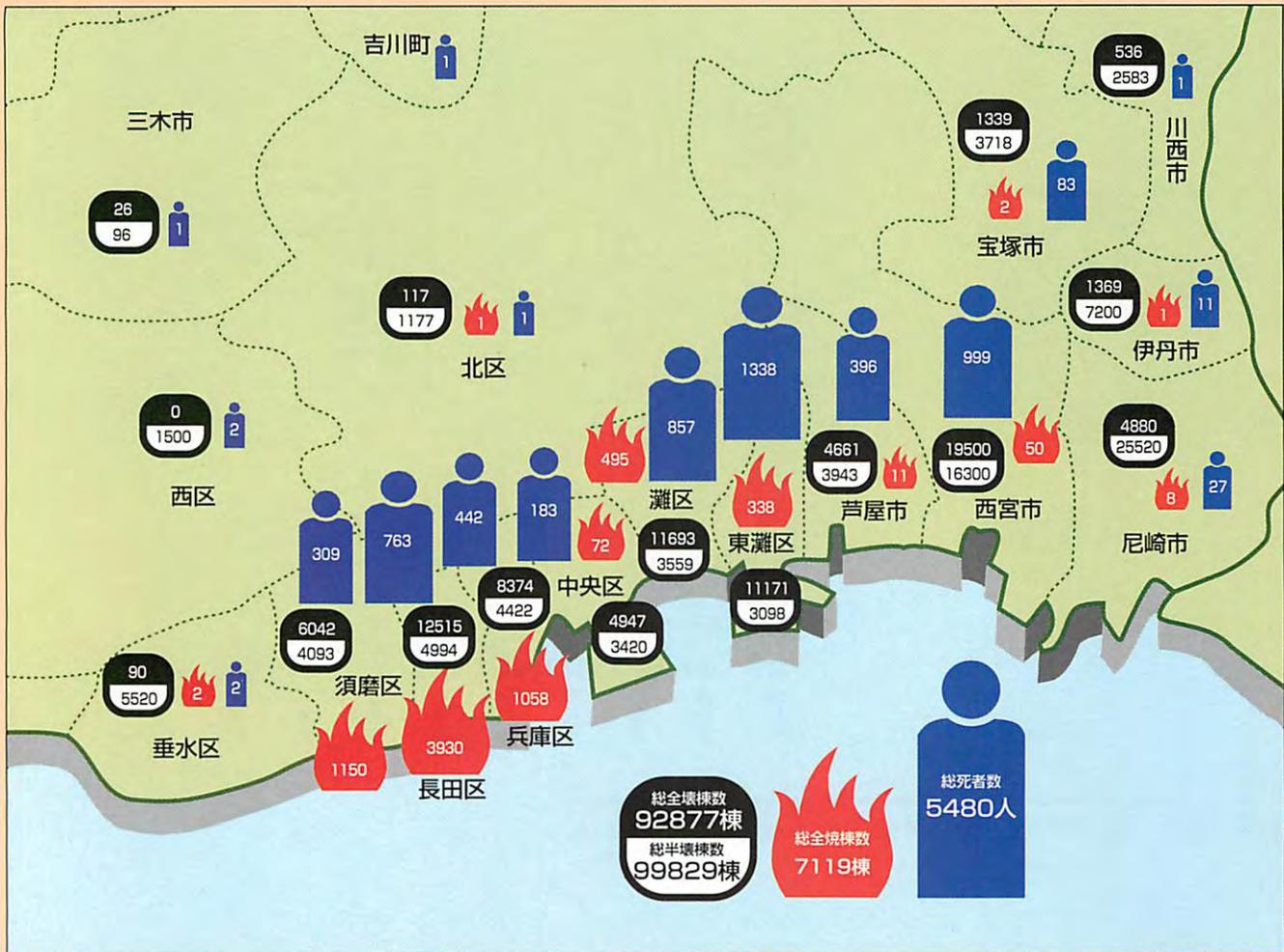
マグニチュードは7.2だが、震源が浅かったため揺れは大きく、日本の観測史上はじめての震度7を記録した。

兵庫県全体で5000人を大きく超える死者を出し、生活を支える電気・ガス・水道等のライフラインは分断された。交通網も寸断し、都市の機能は一時マヒした。また、多数の一般家屋を含む建物が損壊しただけでなく、地震後発生した火災により焼失した。

この地震の被害は阪神・淡路大震災**と名付けられたが、上図はこの震災の主な被害状況をまとめたものである。

（*気象庁による正式名称。 **政府による呼称。）



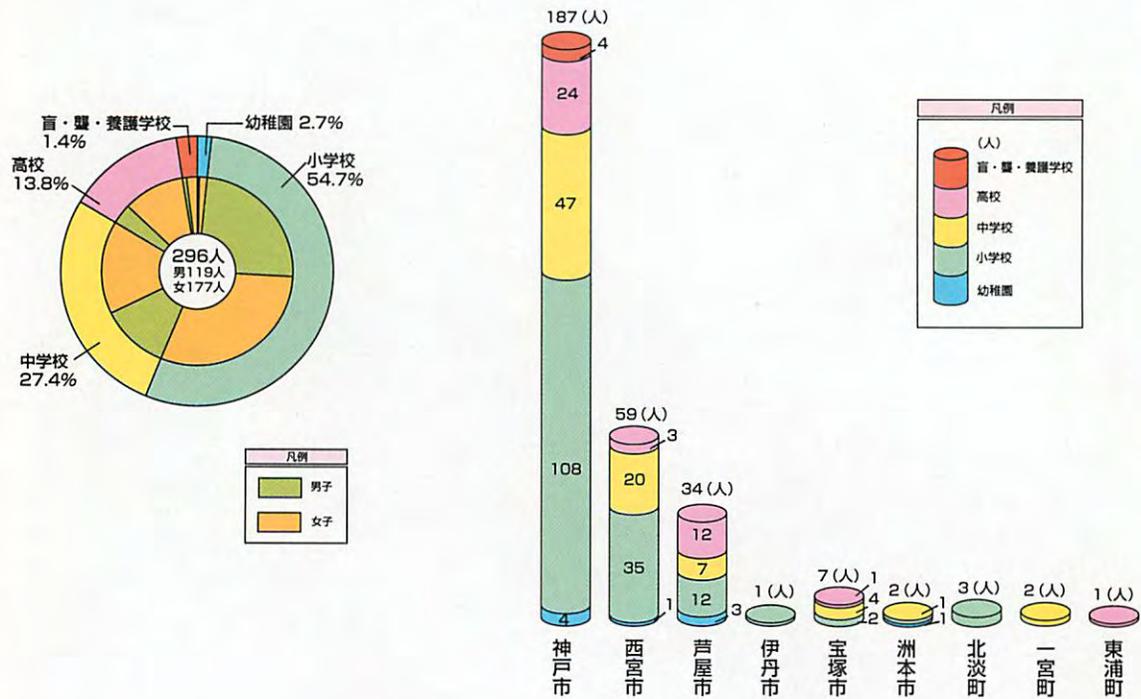


(平成7年11月30日現在)

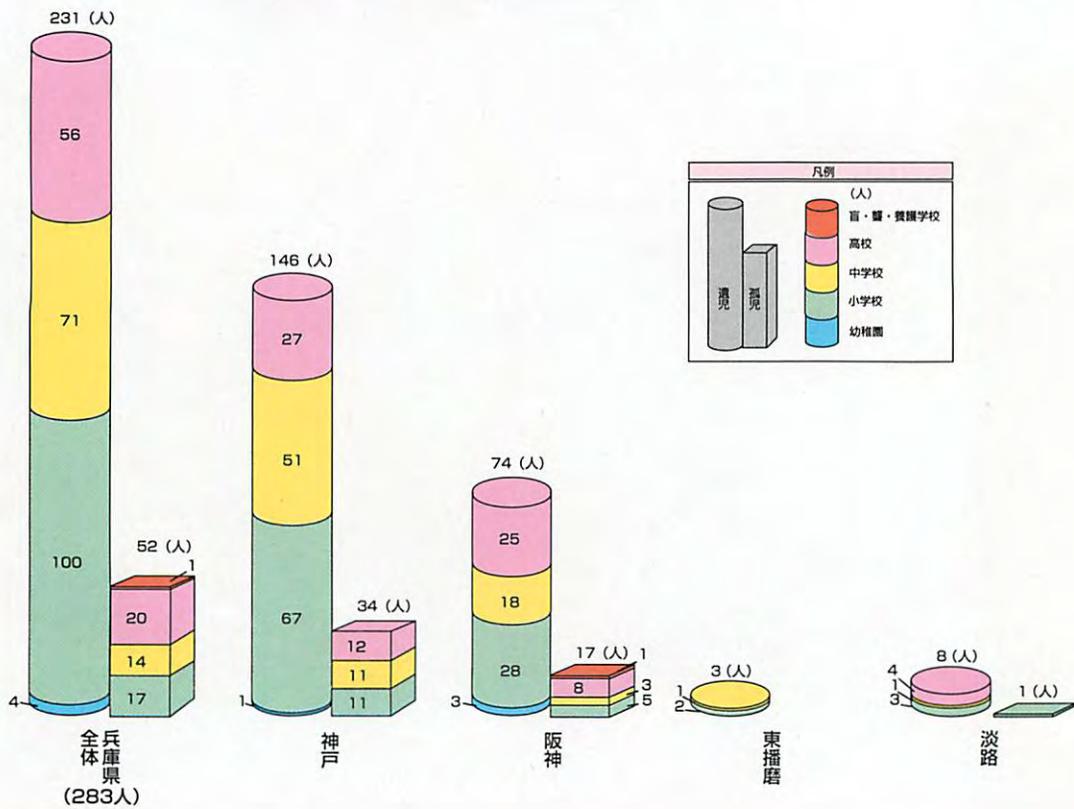
交通網の被害状況



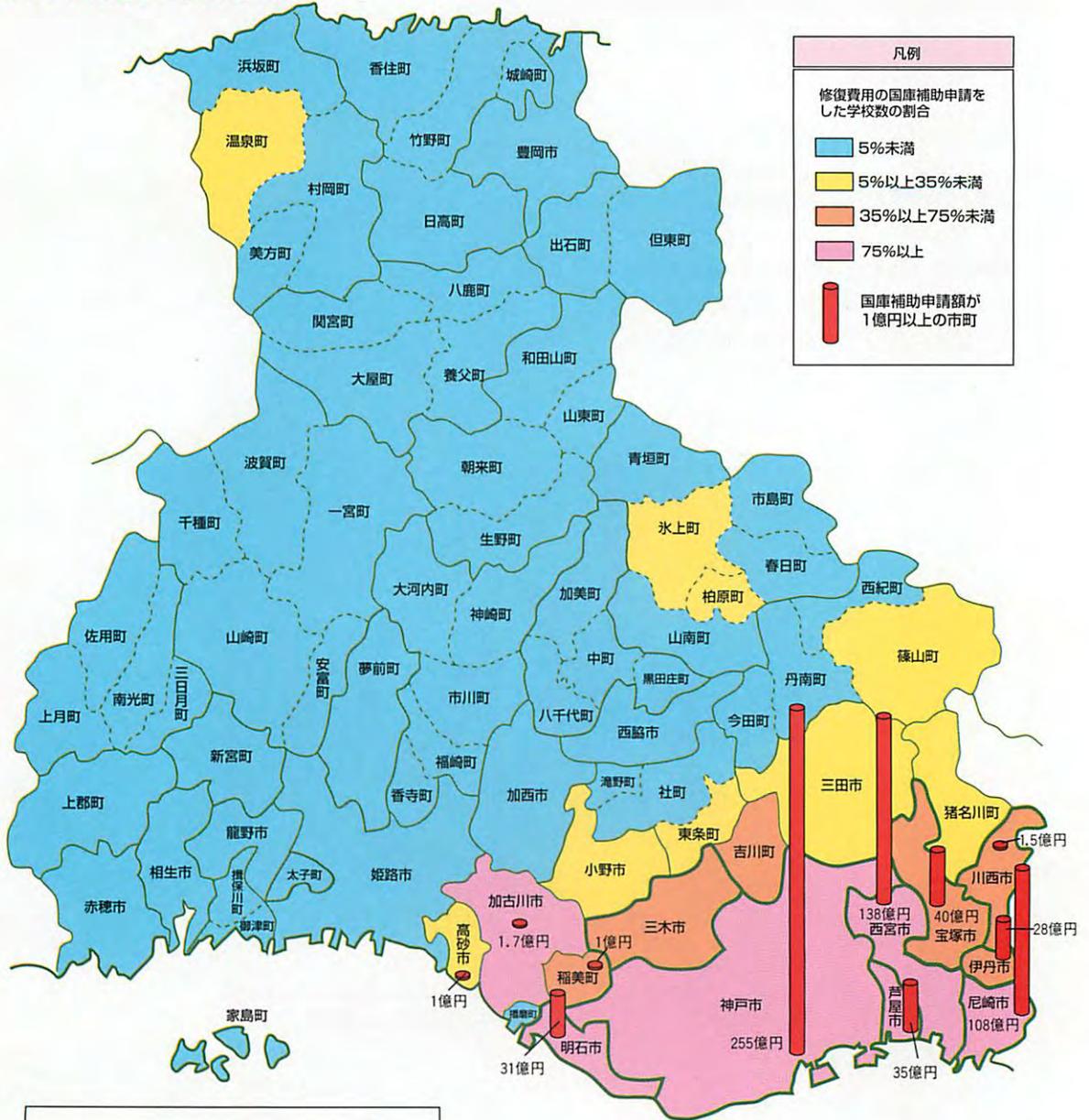
地震で亡くなった児童生徒数 [公立学校の園児・児童・生徒] (平成7年3月31日現在)



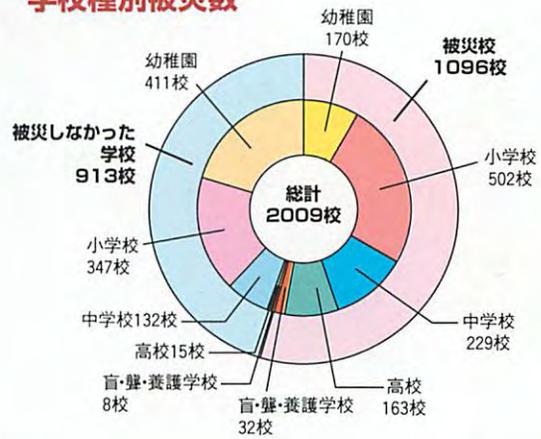
地域別遺児・孤児数 [公立学校の園児・児童・生徒] (平成7年3月27日現在)



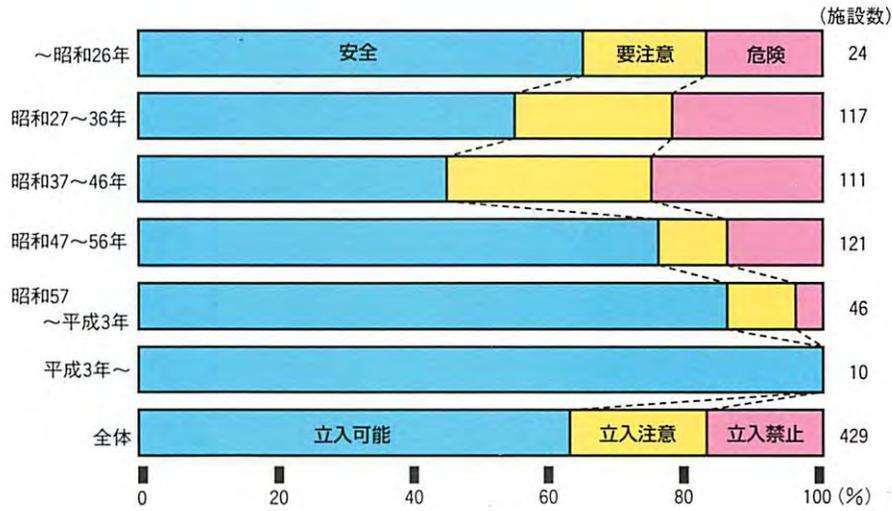
公立学校施設の被害状況



学校種別被災数

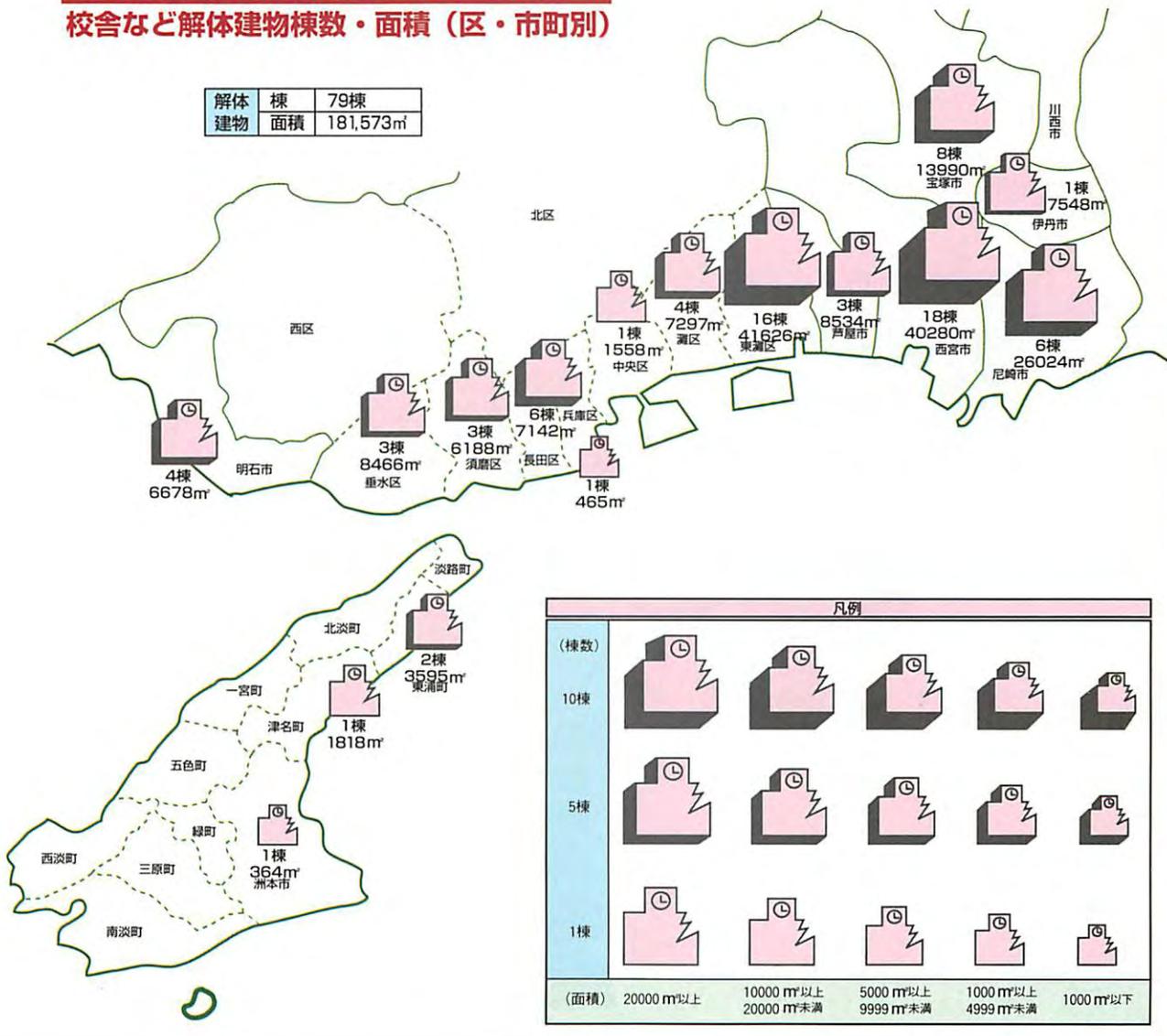


学校施設の建設年次別応急危険度調査の判定結果（神戸市内71校対象）

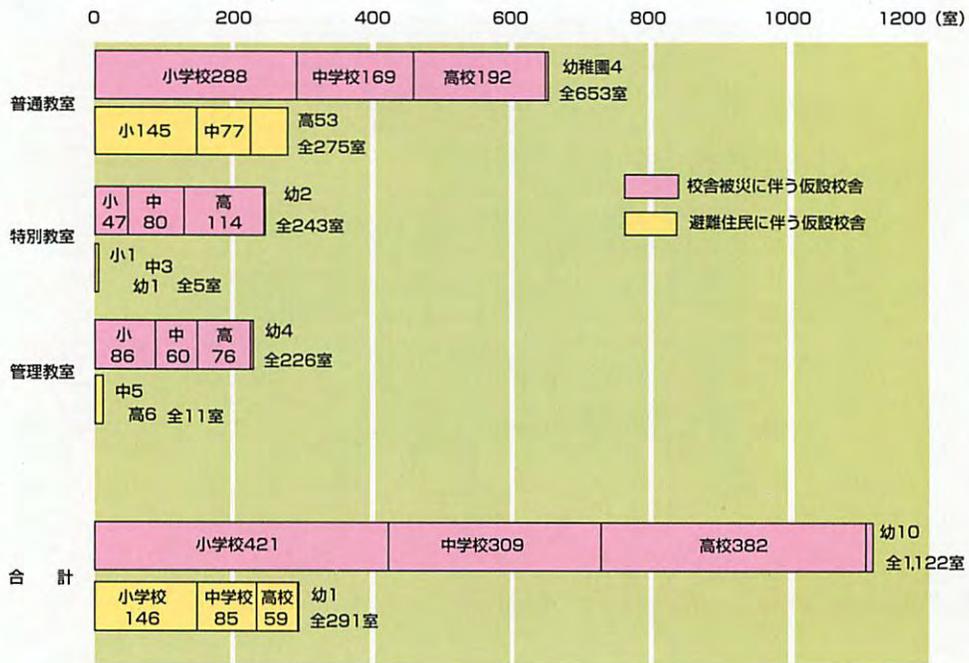


校舎など解体建物棟数・面積（区・市町別）

解体建物	棟数	79棟
	面積	181,573㎡



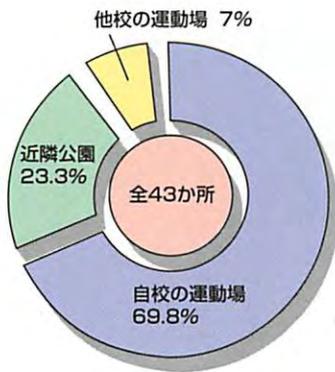
仮設校舎の設置状況



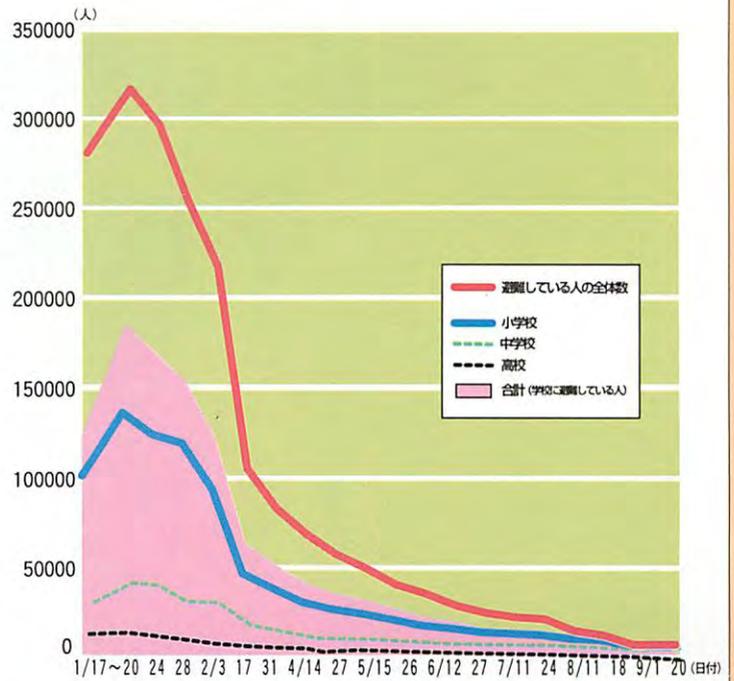
被災者の受け入れに伴う仮設校舎の設置



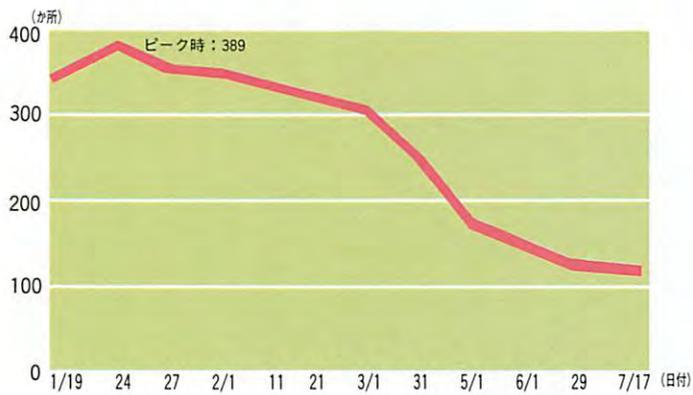
仮設校舎が設置された場所



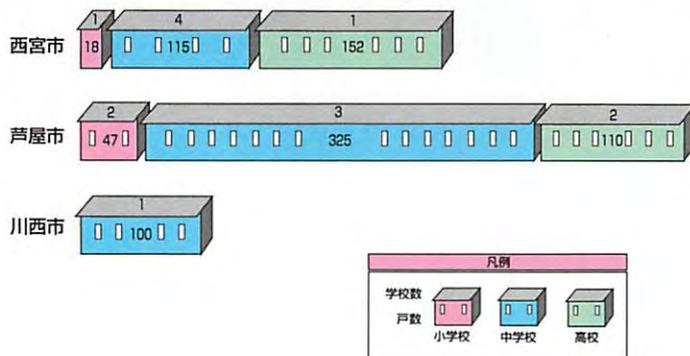
避難者状況の推移（全体）



避難所となっている学校の数



学校の敷地内に設置された仮設住宅



解説

学校は指定のあるなしにかかわらず、多数の地域住民を受け入れる避難所となった。2,000人を超える避難住民を受け入れたため、グラウンド内に仮設校舎を建設して授業再開に備えたが、用地が不足したため、仮設住宅そのものが敷地内に作られた学校もあった。

地震で被災した 学校施設



神戸市立烏帽子中学校では、地震直後に火災が発生し、校舎の2階以上が焼失した



倒壊した木造圍舎（神戸市立御影幼稚園）



校舎の1階部分（神戸市立御影中学校）



鉄筋コンクリート製の校舎の柱も地震のすさまじい力でねじ曲ってしまった
（西宮市立上ヶ原中学校）



破壊された廊下（神戸市立丸山中学校）



段違いになってしまった校舎（西宮市立西宮高等学校）

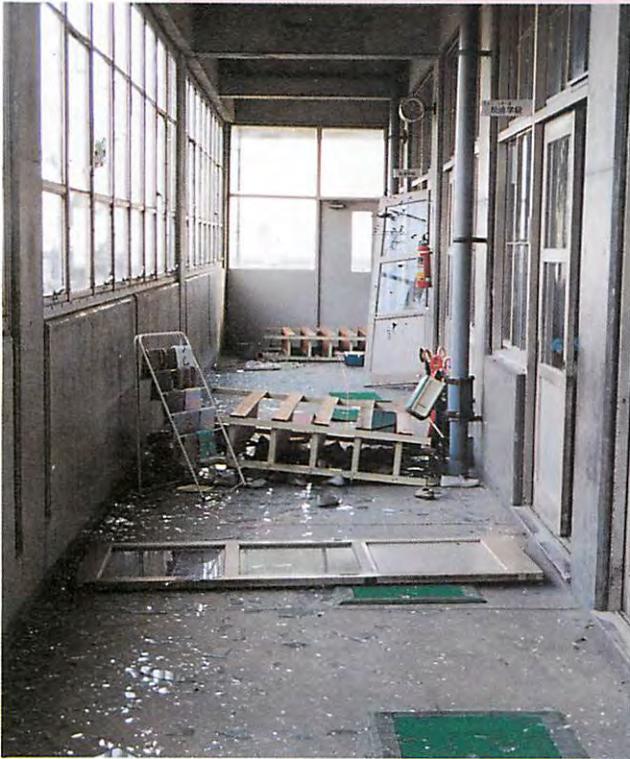


職員室の内部
（西宮市立西宮高等学校）



散乱した化学準備室（県立伊丹北高等学校）

割れたガラスが飛び散った校舎内部
(芦屋市立朝日が丘小学校2階廊下)



破損したトイレ
(明石市立花園小学校)



固定された窓ガラスは地震の衝撃で割れてしまった
(芦屋市立朝日が丘小学校)



液状化現象で土砂が吹き上げた園庭
(芦屋市立浜風幼稚園)



運動場に生じた亀裂 (県立宝塚西高等学校)



沈下した校庭 (県立東灘高等学校)

散乱した保健室
(神戸市立烏帽子中学校)



旋盤が床から根こそぎ倒れてしまった
(神戸市立烏帽子中学校技術室)



コンピュータ教室 (宝塚市立安倉中学校)

書架は倒れ、蔵書は散乱した (県立伊丹北高等学校図書)



県立御影高等学校付近（自衛隊兵庫地方連絡部提供，平成7年4月）

◆学校の受けた被害

（1）壊滅的な被害を受けた学校

今回の震災では学校施設も甚大な被害を受け、8市2町で幼稚園5園、小学校15校、中学校17校、高等学校17校の計54校の建物が取り壊されることとなった。

公立学校の施設の災害は、約1900億円にもおよんだ。建物の解体や復旧工事にともなう教室不足に対応するため、66校に仮設校舎が設置された。

とりわけ被害の大きかった神戸市東部の学校のうち、防災教育検討委員会の協力校である神戸市立福池小学校、同鳥帽子中学校、県立御影高等学校のケースを紹介する。

□学校周辺の被害状況

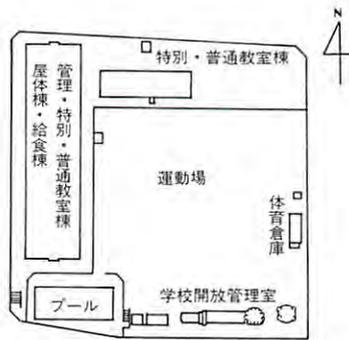
福池小学校、鳥帽子中学校、御影高等学校の3校はJR東海道線と阪神電鉄にはさまれた神戸市東部の住宅密集地に所在している。それぞれの学校

○公立文教施設の被害状況

	全体箇所	被害箇所	割合 (%)	被害額 (億円)	応急仮設校舎 建設学校数
学 校	174	152	87.4	141	13 (12)
・園	1,835	944	51.4	1,705	89 (54)
小 計	2,009	1,096	54.6	1,846	102 (66)
その他文教施設	1,151	248	21.5	487	—
合 計	3,160	1,344	42.5	2,333	102 (66)

※ () 内の数は校舎被災に伴うもの

■ 校舎配置図



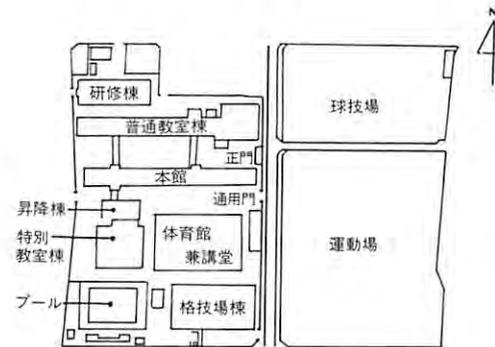
神戸市立福池小学校（神戸市東灘区本山南町）



神戸市立烏帽子中学校（神戸市灘区烏帽子町）

の周辺では木造家屋が数多く倒壊し、文化住宅、アパートなどに甚大な被害が生じ死傷者が多数であった。

また、多くの電柱が倒れたり、鉄道の高架が落下したり、交通、電気、水道、ガスなどライフラインも壊滅的なダメージを受けた。復旧までに鉄道の一部開通に10日、水道は1か月、ガスは2か月を要した。



県立御影高等学校（神戸市東灘区御影石町）

□ 学校施設の被害状況（校舎配置図参照）

〈烏帽子中学校〉

本館棟は、南北方向に建ち（昭和33年建築）、管理諸室・特別教室・講堂がある。この建物は地震直後に2階にある理科室に火災が発生した。学校の管理員、付近の住民が消火器を用いて初期消火に当たったが、火の勢いが強いため、消し止めることができなかった。消防署へ職員を走らせたが、職員の不足で対応できず、自然鎮火するのを待たざるを得なかった。午後1時ごろに2、3階部分を焼失してようやく下火になったため、プールからバケツで水を運んで消した。焼失を免れた1階部分の窓ガラスはアルミサッシであり、被害が少なかったが、正面玄関などの鉄枠のガラスは大半

が割れ、多数の柱や壁には大きなクラックが生じ、3月に取り壊し作業を開始した。

また、東西方向に建つ北館（昭和35年建築）の普通教室は、随所にクラックが生じたが本館棟と比べ被害は小さかった。道を隔てて建つ集合住宅の屋上の給水塔が学校内に落下し、北館横の倉庫を損壊させた。

一方、池を埋めて造成した運動場の南側部分には段差ができ、樹木、フェンスが傾斜し、プールも循環器パイプが切断され、ブロック塀が倒壊するなどした。

■ 烏帽子中学校のように避難住民のために教室が使用できず仮設校舎を設置した学校は、神戸市、西宮市に幼稚園1園、小学校26校、中学校13校、高校3校の計43校にも達した。

復旧が進むなかで、避難住民の住居確保のため仮設住宅が建設されたが、住宅建設に適当な用地が少ない芦屋市、西宮市、川西市では、学校のグラウンドも設置場所となり14校に867戸が建設された。

〈御影高等学校〉

昭和30年から38年に順次増築した本館と昭和47年に建設した特別教室棟の柱・壁に大きなクラックが生じ、立ち入り禁止となり、この2棟は取り壊すこととなった。また、校舎3棟のうち2棟は屋上の受水槽の接続パイプが破損し、学校周辺で水道が復旧した後も給水することができなかった。

〈福池小学校〉

昭和52年に開校された比較的新しい学校であり、建物の被害は比較的少なかったが、学校敷地は、校舎南側の擁壁の崩壊、プールサイドに亀裂が生じるなど大きな被害を生じた。

□備品の状況

それぞれの学校では、指導要録を収納するため校長室等に設置している大型の耐火書庫が倒れ、床に大きな穴をあけたり、机や椅子を押しつぶした。また、職員室や準備室のロッカー類は大半が転倒し、事務机は元の位置から大きく移動するなど足の踏み場もない状態であった。

〈福池小学校〉

各普通教室では、教室に設置してあるテレビの大半が床に落下し、2段式の整理戸棚の上部も一部落下し、割れたガラスが散乱した。また、児童机、指導机も振動により西側に移動していた。

一方、体育館の舞台上の蛍光灯や水銀灯の金属カバーなど、天井から吊り下げられている照明器具の落下などが見られた。

〈烏帽子中学校〉

技術教室では、アングルを組んでいた備品整理棚が分解し、自動カンナ盤はコンクリートに埋め込んだナットを引き抜いて転倒した。旋盤等の工

作機械も転倒し、作業台の卓上ボール盤も床に落下していた。情報処理教室では、机上の機器のほとんどが床に落ち、接続ケーブルが切断されていたり、止めネジが抜けているものもあった。また、OHPや器具収納庫も落下や転倒で破損し飛び散っていた。コンピュータ室にある本体、キーボード、ディスプレイなどは床一面に散乱していた。

〈御影高等学校〉

吊り下げ式の蛍光灯を使用していたがその多くが落下し、掃除用具入れ等の教室内のロッカーはすべて倒れた。職員室の机の移動も激しく、天井も一部損壊し、床はガラスなどが散乱しており、手の付けられない状態だった。

□ライフライン（電気、水、ガス、電話等）の状況

各学校とも被災状況は異なっているが、代表例として、烏帽子中学校の状況を記載する。

○電気

震災直後に学校内で利用できたのは、懐中電灯数本と、カセットラジオのみであった。1月20日昼ごろに救援の発電機が届き、電灯程度の利用が可能となった。しかし、電機器具多用のため、しばしばブレーカーが落ち停電となった。

余震の不安と寒さのために、震災当日の昼ごろから、運動場でグループごとのたき火が始まった。また、避難場所となった教室では、ローソクが使用されたが、余震に備えて使用を控えてもらうようお願いした。電気の本線切り換えは22日午後となった。

○水

上水道の断水のため、飲料水の確保に近所へ井戸水を汲みに行くが飲用には適さず、給水車の世

○電気、水道、ガス等の復旧日

学校名	電気	水道	ガス	公共下水
福池小学校	1月19日	2月18日	3月18日	2月21日
烏帽子中学校	1月22日	2月21日	3月20日	1月21日
御影高等学校	1月20日	2月10日	3月27日	2月10日

話になった。水洗トイレの使用のため、プールの水を運んでトイレの前に置いたが追いつかない。1月18日には、隣接公園に穴を掘ってトイレにした。ようやく2月21日に校内の一部の水道が復旧したが、残留塩素が多いため、さらに1週間ほどは飲用に不相当であった。

○ガス

2か月以上都市ガスの供給が止まったことにより、学校内のガス器具は使用不可能で、避難者の炊き出しなどは、プロパンガスやカセットコンロを使用した。

○電話

本館の火災により電話交換機が故障したため1月19日に仮設電話2台が設置された。福池小学校は17日中に、御影高校は1月20日に設置された。避難者の連絡用電話は、それぞれの学校とも21日前後に2～5台設置された。

(2) 避難所となった学校

□学校への避難状況

〈福池小学校〉

近所に住む学校開放委員が校内の鍵を保管しており、校門を開けた。避難者は窓ガラスを割って教室に入った。校区には倒壊家屋が多く、救出のため学校ののこぎり、スコップ、バール等が取り出された。重症の患者が次々と運び込まれ、保健室は救護室となった。校区の医師2名、看護婦3名が対応。また、19人の遺体を理科室と普通教室に安置。これ以上は無理なので断った。校長室、

保健室、職員室、管理員室を除いてあとは開放した。

18日には、海岸近くの液化天然ガスタンクのひび割れにより避難勧告を受けた。そのため、他の避難所にいた住民が避難し、一時は3000人を超える人でごった返した。

〈烏帽子中学校〉

管理員が学校へ駆けつけた時には、本館2階で火災が発生しており、持参の鍵で校門を開けて周辺に集まっていた人とともに初期消火にあたった。北校舎の鍵を開け教室・廊下を開放したのは午前8時ごろ。避難者は18教室の内シャッターの降りていた1教室を除いて入り、特別教室へも鍵を壊して避難した。18日には1200人程度までに増加する中、会議室を本部として確保。当初校舎に300人、校庭に700人が避難していた。電話は不通で、区役所との連絡が取れず、どうなっているのかわからず混乱した。

〈御影高等学校〉

宿直員が校門や体育館の扉を開いた。地震直後には避難者の多くがグラウンドにいたが、夕方になって体育館（2か所）に入るよう1500人程度の避難者を誘導した。また、昼ごろ4人の遺体が運び込まれたが、区役所に搬送する。18日には福池小学校と同じ理由で2000人を超える避難者を収容することとなった。

□避難者の生活

各学校とも、体育館が避難所の中心となったが、当初の余震が続く停電状態の中では、ローソク、石油ストーブなどの火気の使用が大きな問題となり、担当の教職員が幾度となく注意を促した。通

電後は、コンセントが少ないため電気製品の使用に支障が生じた。それとともに学校全体の電気容量が小さく、電気毛布や電気ポットなどの使用でブレーカーがしばしば落ちた。

また、多数の人が集まっていることや寒さのため窓を開けることができず換気が悪いことから、インフルエンザが流行した。

民家の解体作業が始まると家財道具を避難所に持ち込もうとする避難者に対し、搬入を断るのに苦労した。

避難者の多くは、余震の不安の解消やライフラインの復旧、また仮設住宅などの落ち着き先を得て、学校から徐々に離れていった。一方、炊き出しや救援物資の配給状況人づてに聞いた他地域からの避難者やホームレスの流入に伴いトラブルの生じたケースもあった。

校舎内には避難住民が生活しており、授業の再開、卒業式、入学式など学校教育活動のため、仮設校舎の設置などの対応を行ったが、通常の学校教育活動に戻るまで非常に苦労した。

被災直後からの烏帽子中学校の状況は次のとおりであった。

○被災直後1週間

18日朝届いた食糧はきわめて少なく、パニックを覚悟しながら配給せざるをえなかった。列を作るよう呼びかけても、あちらこちらから手が伸びて、奪い取られるようにして一瞬のうちになくなってしまった。食糧がなくなっても次の配給を待って動かないため、番号札を作成して渡し食糧の到着を待った。

また、余震の不安から屋内で過ごすことに恐怖を感じている人が多く、運動場の各所でたき火を

囲んで野宿をしていた。当初たき火は倒壊家屋の廃材を使っていたが、しまいには卒業生が残してくれた貴重な作品も燃やされていた。たき火の材料を作るために技術室の工具も無断で持ち出されていた。

数日が経過すると、避難所内しか救援物資があたらないと学校周辺地域から苦情が出たため、救援物資配給を知らせる地域（ハンドマイクによった）を広げた。

○被災後1か月

1月26日に行われた危険度調査により、本館は立ち入り禁止となる。そのため、校長室、職員室、事務室などが使用できなくなり、北館の2教室の避難者に体育館等に移動してもらい、使っていなかった1室と併せ3室を確保した。これが被災直後の混乱した状態だったならば、到底この移動は不可能であったと思われる。

避難者の自治活動が円滑に進みはじめる一方で、避難者同士の口論もめだちはじめ、夜遅くまで騒ぐ者もあり、ほかの避難者に迷惑をかけた。また、たくさんのボランティアの援助を得るが、炊き出し目当てに周辺地域から大勢の人が集まり、学校避難者とほかの避難所の炊き出し内容等で苦情がでたりもした。

○その後

自治活動のリーダーが、昼間仕事に出かけて不在となり、当番制で避難者同士が世話をすることとなった。そのため、自治活動への積極性が薄れてきた。また、救援物資のうち衣類などの不要物資がたまり、保管場所の確保が困難になった。電話は無料で使用ができ、おまけに物資が入手でき

○救援物資の搬入状況

	福池小学校	烏帽子中学校	御影高等学校
1月17日	なし (1,600人避難)	深夜：弁当150食 りんご2箱(600人避難)	深夜：コッペパン 300個 毛布200枚(1,500人避難)
1月18日	食パン、菓子パン	食糧極少量、給水車	懐中電灯、カイロ
1月19日	未明：多種・多数	毛布、衣類	多種・多数
1月20日	医薬品	医薬品、多種・多数	
1月21日	仮設トイレ（4基）	仮設トイレ（2基）	仮設トイレ（16基）



地震による火災で全焼した教室棟（神戸市立烏帽子中学校）

るとの情報が流れ、外部の人が入り避難者用仮設電話を長時間独占するなどのトラブルも生じた。

しかし、幸いなことに授業再開後も子どもたちの教室を使用しているという避難者の思いや、生徒たちの避難者への理解により避難者と生徒とのトラブルは見られなかった。

□保健室、給食室等の利用

○保健室

被災直後は、周辺の病院も大きな被害を受けていた。そのため、各学校には多くの遺体や負傷者が運び込まれることとなった。各学校は、応急処

置の場となるばかりでなく遺体安置所ともなり、1階の保健室は応急処置の中心となった。

被災後3～4日後には各学校に医師、看護婦が派遣され、けがの手当てや医療相談所として使用された。それとともに、救援物資として送られてくる医薬品の管理場所ともなった。

御影高等学校の保健室では、被災当日は応急処置室、2日目からは重症者の病室、3日目からは医師、看護婦の詰め所及び治療室として、被災後1週間目から地域医療の拠点として、3月末まで使用された。4月からは、保健婦による心のケア相談所として利用された。

なお、烏帽子中学校では、保健室の上部階が火

○救援物資保管場所

	福池小学校	烏帽子中学校	御影高等学校
震災後 数日	食糧は給食室、医薬品は保健室、その他は廊下	後日立ち入り禁止となった本館の入口、廊下	本部としていた体育教官室
約 2週間後	理科室に日用品 (初期は遺体安置室)	物資があふれ、本部テント周辺に野積み	中庭のテント4張
それ以降	テント	校舎裏側にテントを張り簡単な囲いを作る	中庭のテント10張、正門のテント1張

学校の受けた被害

災となったため、担架など持ち出せるものを搬出し、会議室が救護場所となった。

福池小学校では保健室に重症患者が次々と運び込まれ救護室となった。一方、理科室は長机があるので当初遺体安置所となったが、19遺体を安置することができず、2つの普通教室を遺体安置に使用した。

ため調理等が行えず、食料品の貯蔵庫として2月末まで利用された。また、調理員の休憩室はしばらくボランティアや教職員の女性用の宿泊室として活用された。

また、家庭科室は学校内に避難している人の子どもに弁当をつくる調理室として使われた。

○給食室、調理室等

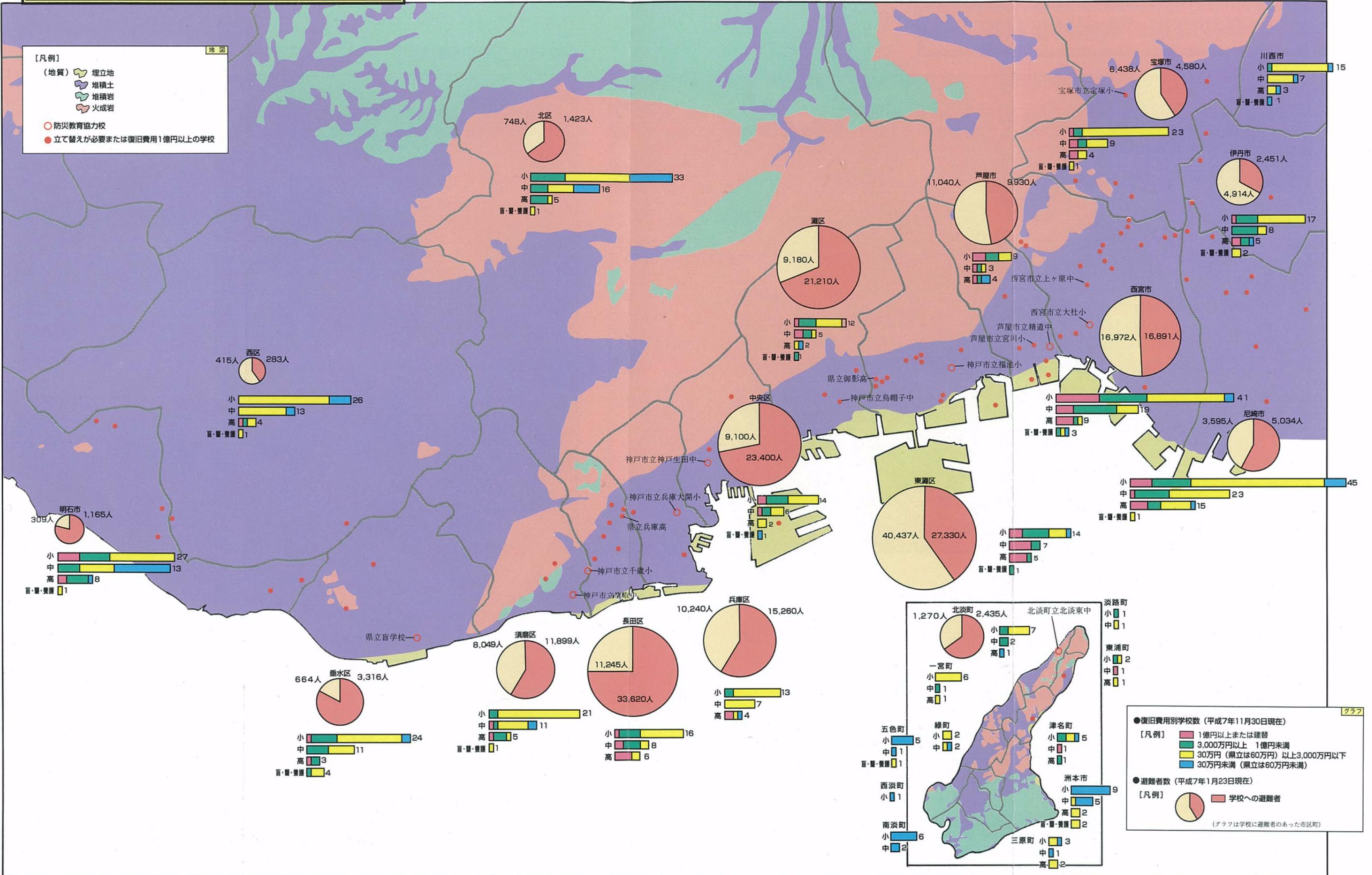
福池小学校の給食室は都市ガスが使用できない



避難者数と学校の被害

—公立—

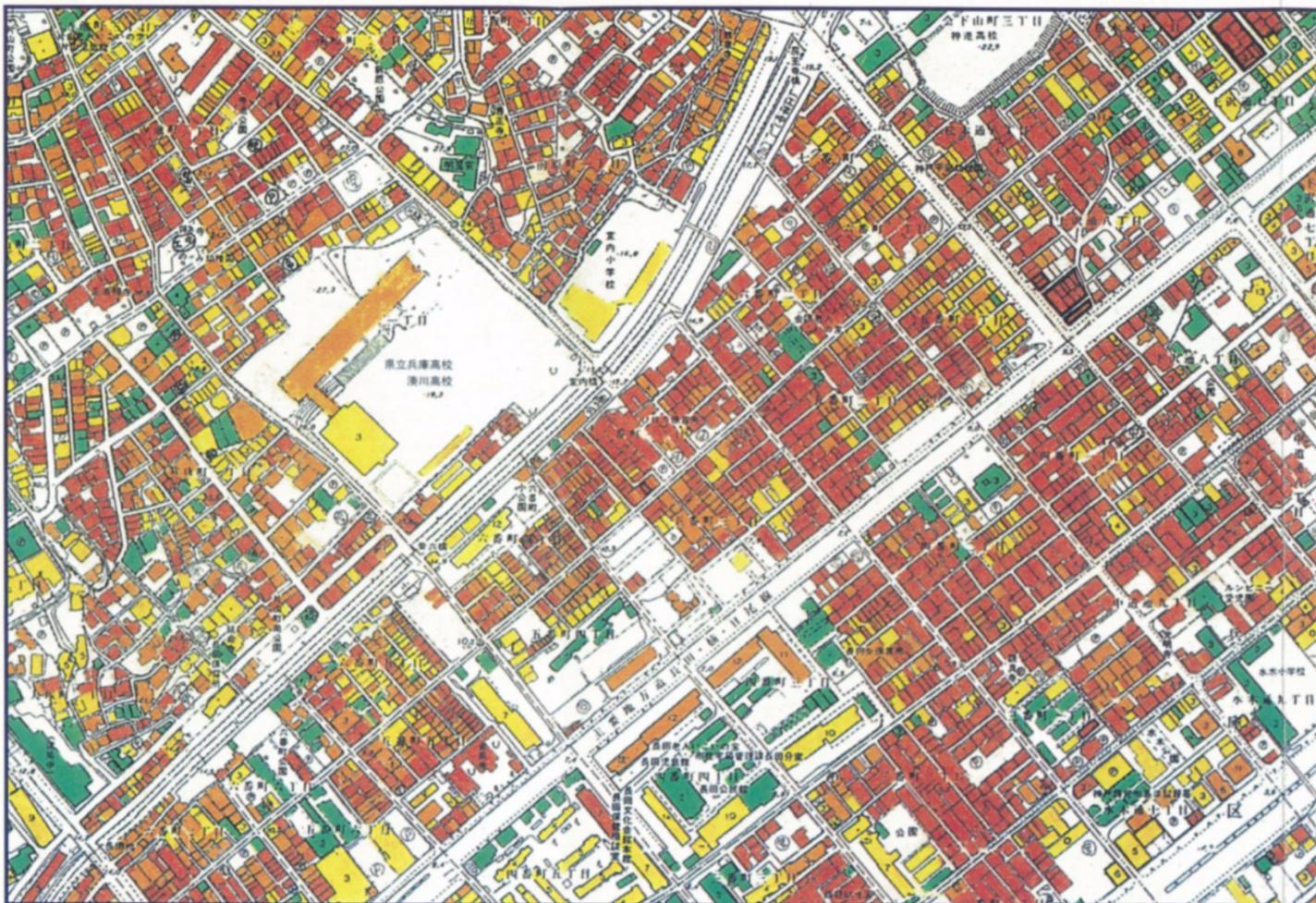
- 【凡例】**
- (地質)
- 埋立地
 - 堆積土
 - 堆積岩
 - 火成岩
- 防災教育協力校
● 立て替えが必要または復旧費用1億円以上の学校



- 復旧費用別学校数 (平成7年11月30日現在)**
- 【凡例】**
- 1億円以上または建替
 - 3,000万円以上 1億円未満
 - 30万円 (県立は60万円) 以上 3,000万円以下
 - 30万円未満 (県立は60万円未満)
- 避難者数 (平成7年1月23日現在)**
- 【凡例】**
- 学校への避難者
- (グラフは学校に避難者のあった市区町)

学校周辺の家屋被災状況

【神戸市立千歳小学校周辺】



【県立兵庫高校周辺】

凡 例	
〈建物の被災度ランク〉	
	外観上の被害なし
	ランク A (軽微な損傷)
	ランク B (中程度の損傷)
	ランク C (全壊または大破)
〈火災による被害の有無〉	
	火災による被害あり

被災度別建物分布図 (震災復興都市づくり特別委員会、1995.3.25発行) より作製。
注) 本図は外観の目視調査の結果であり、(被害補償) などの判定基準としては利用できない。